

若い団結力で不良土壌を克服

富山県富山市の万願志開拓（地名は万願寺）は、県のほぼ中央に位置する台地で、標高は90～240m。積雪量は約1・5mとなっている。

土壌は赤土の粘土質で、強酸性の地力の乏しい土地だった。この地区の近くに、富山県農業試験場（現、県立中央農業高校）があり、当時あまり営農試験成績が上がっておらず、場長より「この土地は開拓不適地である」との勧告があった。

しかし、17～30歳の若い力を結集して事に当たり、比較的平坦な土地で、機械化農法でやればできないことはない。笹や松に覆われた不良土壌も、開墾熟畑化すれば十分な営農成果を上げることができる、との確信があった。

20名が入植した46年から48年春までは共同経営だった。粗末な丸太小屋から、46年12月には住宅資金を出し合って共同宿舎ができた。

初めは鎌や鍬での手作業であったが、この土地を肥沃な一面緑の畑に変えるのだ、という共通の想いで頑張り続けた。

47年にはトラクターが導入され、開墾もはかどるようになってきた。

その後は次第に個人経営に移行し、それぞれが家庭を築いていき、24年3月には完全な個人経営となった。

スイカやダイコンが主に作られるようになり、堆肥を確保するために、乳牛などの家畜も少しずつ導入していった。

不良土壌を改善するために、堆肥などの施肥の方法を学んだり、スイカの先進地に視察に行ったりと、できる限りの最善を尽くした。

48年には万願志開拓農協が発足し、販売部がスイカやダイコンなどの販売を行うようになった。品種の選定などもあり、大変良い品質の作物ができるようになった。

98を増頭し、本格的に酪農を経営する農家も出てきた。

98年には神明社（地元の氏神様）の境内に、開拓一世が中心となり、入植記念碑が建てられた。

今も次世代の開拓者が、スイカやダイコン、酪農などを引き継いでいる。

万願寺 16-201-1

①調 査 日 平成 30 年 5 月 14 日

②所 在 富山市万願寺

③地 区 の 沿 革 ダイジロ山の北方標高 90～240 米の民有地が解放され、昭和 21 年 29 戸が入植した。組合は万願志開拓農業協同組合

④設 置 年 月 日 平成 10 年 12 月

⑤設 置 者 入植者

⑥碑 文（表面） 入植記念碑

⑦碑 文（裏面） 第二次世界大戦後、理想の新農村を築かんと昭和二十一年春より青年等順次入し、事業に携わる。然し、農地は地力に乏しく筆舌に尽くせぬ苦労を重ねる事となるも、良く工夫と研鑽に励み関係機関並びに、地元の暖かき御協力も戴き次第に優秀なる実績を挙げ、農林大臣賞を初め数々の賞を得て今日に至る。入植以来五十有余年当地区の運営も漸次、次世代に移りこれを機に、初代間に俄かに此の碑を建立せんとする気運高まり、協力一致事に当った。

ここに我らが思いをこめて記念碑を建立す。

入植記念碑名簿順（順不同）（入植者氏名 30 数名）

蒼天へ鋤ふり揚げし拓者哉

平成十年十二月吉日

入植者一同建之

⑧現 在 の 状 況 地区の神明社敷地内に有り維持管理されている。